

## 娘の昇天から 10 年間の想い

米山容子

改めまして、自己紹介をさせていただきます。私は、広島市西区で、小さな一歩・ネットワークひろしまという NPO 法人活動をしております。米山と申します。大手町にあります広島教会の教会員です。

ここで私の信仰の道のりを少しお話させていただきます。

クリスチャンホームに生まれ、子どもの頃は両親と信仰を共にしながら、成長して背を向けた私が、40年以上を隔て、神様の前に突然立ったのは10年前の2011年6月21日、場所は広島大学病院救命救急集中治療室、自ら命を断った娘の枕元でした。

それまで私は広島教会には全く一面識もありませんでした。

しかし、自分の娘を葬る、という突然の事態に遭遇したとき天の神様におすがりするしことしか頭に浮かびませんでした。全く勝手なものです。紹介も何もなく、電話帳で調べ、広島教会に電話をし、電話口で事情をお話ししましたが、そんな依頼にもかかわらず、すぐに武田牧師が駆けつけて下さいました。そして集中治療室の、臨終の枕元で看護師の反対を押し切って讃美歌 493 を歌いました。「いつくしみ深い 友なるイエスは 憂いも罪をも拭い去られる・・・」

歌い始めた瞬間、苦しみながら死を自ら選んだ娘の魂を神様が救って下さることに、涙があふれました。

葬儀の後、教会に足を運んだ私に、武田牧師は、キリスト教の信仰は「永遠の命」への信仰であること、永遠の命とは現世に生きていたまま御国で長らえることを言うのではない。死んだ後にイエスキリストに購われた新しい命が神様の身元で永遠に生き続けることである、と説き明かして下さいました。

一度暗黒の底に落ちて無になってしまった自分が、一から生き直す道を探す上で、「娘が御国で永遠の命を与えられて私を見守ってくれている」と信じることはどれほどの力になったことでしょうか。このときに信仰に出会えていなかったら今の私も「小さな一歩」の活動もなく、いま皆さまにお会いすることも無い。神様のお恵みと出会いに感謝します。

その年の9月から入信の勉強をし、12月第1回目の主日礼拝で洗礼を受けました。その日、50年間以上信仰を続けてきた85歳の父が同席し、礼拝後に、「私は、長い信仰生活の中で子どもたちには信仰を強要するのではなく、自分の意思で信仰の道を選んでくれたらいいと思ってきましたが、それがこのようなきっかけになるとは、思いもしませんでした。神様のご計画はきびしい・・・」と泣きながら絶句したことが忘れられません。

その父は私の「小さな一歩」の活動を応援してくれましたが、2年後の5月に突然の病で昇天し、母もその3年後に昇天いたしました。今は娘と共に両親が御国で私を応援してくれていると思います。

そのような強い想いで始めた信仰生活でしたが、人間の心はなかなかすぐに整理できるものではありません。その後も、希望のない暗い心の日々は続きました。

神様の愛やお導きについて何度教会で学んでも、私は娘の突然の死について答えが得られず、神様を見上げ、「娘はどのようなご計画により、25歳の若さで御国に召されたのでしょうか」「これは罪深い私への罰なのでしょうか、ならばなぜ私を苦しめなかったのでしょうか、この私にあなた様はどのような使命を与えようとされるのか」と問い続けました。

そんなある日の礼拝で『ローマの使徒への手紙 5章の一節に触れました。「わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである」』

その時、「今は苦しみに耐えるだけしかない毎日だが、これが自分の中で練達し、希望へと変わる日が来るのかもしれない」と、一筋の光を得たような気がしました。

その後1年が過ぎたころから神様の「計画」や、神様から託された自分の使命について深く考え、神様に問う日々が続きました。その頃から、私と同じ苦しきを持つ方々と支え合いたいという漠然とした思いが次第に固いものになっていくことを感じ、2013年に「小さな一歩・ネットワークひろしま」というNPO法人を立ち上げ、広島教会の一室をお借りして、自死遺族の分かち合いである「自死遺族の希望の会」や、うつ症状のあるご本人、またはその方を支える家族を対象とした「こころを休憩する会」の2つの分かち合いを始めました。

そしてその後2年後に「こころのともしび」という『常設型傾聴スペース』を開きました。この場所では休日なしで、心の病の苦しさや悲しい気持ち、孤独など、「誰かに話を聞いてもらいたい」という想いを「個室傾聴」という形でゆっくり耳を傾けることをしています。と同時に、フリースペースとして開放しています。特に予約や参加資格、個人情報登録する必要もなく、気軽に立ち寄ってお茶を飲みながら、雑談をしたり、人の話を聞いたりといった自由な過ごし方ができます。特に昨年からは、コロナ対策による外出自粛により、人と触れ合う機会が制限される中で、「一人でいると気持ちが落ち込む、誰かと話したい」という方が気軽に利用できる場所として喜ばれております。

「自死遺族の希望の会」と「こころを休憩する会」は、「こころのともしび」に場所を移し、現在、遺族の会は偶数月の第3日曜日の午後、「こころを休憩する会」は毎月第2日曜日の午後に行っています。毎回6人～8人の方のご参加があり、それぞれに、尽きせぬ思いや、身内や親しい方には遠慮があったり、いろいろなしらがらみがあつて語れない、深いこころの内を遠慮なく語り合う機会にしてくださっています。

もちろん、この活動もいいことばかりではありません。小さな一步の活動は、人と人との言葉を通じた心のふれあいをする活動です。お互いの考え方や価値観、育ってきた環境によってそれぞれが違います。

来られる方の中には、思いが行き違ったり、うまく伝わらなかつたり、逆恨みされたり、誤解されたりと辛い思いをすることもあります。そんな時、私はマザーテレサの言葉を思い出し、胸に刻みます。

#### あなたの中の最良のものを ～ マザーテレサの言葉より

人は不合理、非論理、利己的です

気にすることなく、人を愛しなさい

あなたが善を行うと、

利己的な目的でそれをしたと言われるでしょう

気にすることなく、善を行いなさい

目的を達しようとするとき、

邪魔立てする人に出会うでしょう

気にすることなく、やり遂げなさい

善い行いをして、

おそらく次の日には忘れられるでしょう

気にすることなく、し続けなさい

あなたの正直さと誠実さとが、あなたを傷つけるでしょう

気にすることなく、正直で誠実であり続けなさい

あなたが作り上げたものが、壊されるでしょう

気にすることなく、作り続けなさい

助けた相手から、恩知らずの仕打ちを受けるでしょう

気にすることなく、助け続けなさい

あなたの中の最良のものを、この世界に与えなさい

たとえそれが十分でなくても

気にすることなく、最良のものをこの世界に与え続けなさい

『最後に振り返ると、あなたにもわかるはず、  
結局は、全てあなたと内なる神との間のことなのです。  
あなたと他の人の間のことであったことは一度もなかったのです。』

きっかけは、とても悲しいものでしたが、あの場所で信仰に出会わなかったら私はどうなっていたか、想像もつきません。希望の光が見えるかどうか、まだ自分でもわかりませんが、いつも神様のご指示を仰ぎながら進んでいきたいと願っています。